

# 漁況予報 いわし

## 第154号

2009年7～8月漁期  
(2009年7月13日発行)

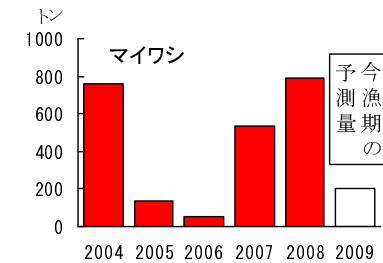
### ＝ 予 報 ＝

#### 【まいわし】

今漁期は、今年生まれの小・中羽マイワシ主体に、ヒラゴが混じるでしょう。  
3～6月のシラス漁におけるマシラス（マイワシの仔魚）の漁獲量から、今漁期の漁獲量は、定置網を主体に約200トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網+まき網

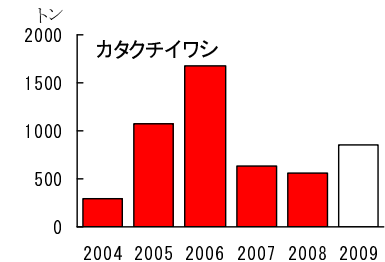
過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



#### 【かたくちいわし】

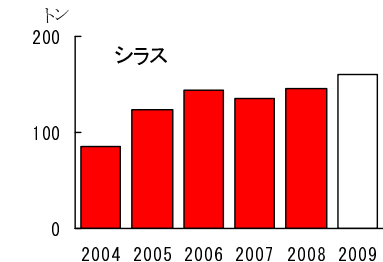
今漁期は、小型～大型成魚が漁獲の主体となるでしょう。  
5～6月の県内主要定置網による漁獲量から、今漁期の漁獲量は約850トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網+まき網



#### 【しらす】

今漁期は、6月以降に相模湾で生まれたカタクチシラス（カタクチイワシの仔魚）が漁獲の主体となります。  
当センターが実施した6月の卵稚仔プランクトン調査結果によるカタクチイワシ卵分布量から、今漁期の漁獲量は約160トンと予測されます。



### ＝ 概 況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は268トンと不漁だった前年同期（12トン）を大きく上回り、つづく6月は9トン（速報値）と前年同期（30トン）を下回りました。5月の好漁は、中旬に相模湾中部～東部の定置網に中羽マイワシが入網したためですが、その漁獲は単発的で長続きしませんでした。

魚体は、5月は15～16cmの中羽マイワシ（2008年級・1歳魚）が主体でした。6月には9～10cmのヒラゴ（2009年級・0歳魚）がカタクチイワシにわずかに混じりましたが、まとまった漁獲は認められませんでした。

佐島地区のまき網は、餌イワシ（カタクチイワシ）にわずかにヒラゴが混じりましたが、鮮魚となる中羽サイズ以上の漁獲はありませんでした。

3～6月のシラス船びき網によるマシラス（マイワシの仔魚）の漁獲割合は、各月とも1割未満と昨年を下回りました。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は766トンと前年同期（877トン）並み、6月は427トン（速報値）と前年同期（853トン）を下回りました。平年値（過去5年平均）との比較では、5月は平年並み、6月は平年を下回っていました（平年値：5月793トン、6月679トン）。

魚体は、10～11cmの小型成魚が主体で、6月には7～8cmの未成魚も混じりました。

佐島地区のまき網は、5、6月とも餌イワシとしての漁獲が継続しました。

#### 【しらす】

4月に相模湾全域で本格的な漁を迎えたシラス船びき網漁ですが、5月中旬以降は東西で漁模様が大きく分かれました。鎌倉以西の漁場では良好な漁が継続しましたが、逗子～長井周辺の漁場ではまとまった漁がほとんど認められない状態が、6月以降も継続しました。これは湾内の海況条件が原因と考えられますが、具体的などのような現象が起きたのかについては、いまのところ未解明です。